

全科協ニュース

平成4年1月10日発行
(通巻第122号)

全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel.03-3822-0111(大代)
Fax.03-3824-3298

- おもな内容：◇年頭にあたって 全科協 理事長 諸澤正道
◇自然史博物館（ロンドン）探訪記 新潟県立自然科学館 日根之和
◇1992年国際宇宙年の活動始まる

年 頭 に あ た っ て

全国科学博物館協議会
理事長 諸澤正道

全科協の皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

各会員館園におかれましては、本年も種々の新しい企画のもとに新たな発展を期しておられることと存じます。益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

世界の平和と人類の幸せに科学の果たす役割が益々重要になってきた今日、生涯学習、学校の週休2日制等一般社会からの博物館への期待も益々多様化の傾向にあります。

このようなときこそ、しっかりとしたコンセプトに基づき、活気ある博物館をめざして、博物館の活性化を図っていかねばならないと存じます。

さて、全科協の加盟館も年々増加し現在155館となり、事業の内容も、事業研究会、海外視察研修、特別展・企画展・移動展開催に伴う標本資料の貸借等及び「全科協データブック」の作成のための予備調査の実施など活発に展開されてまいりました。昨年11月に実施した、事業研究会では「博物館と学校教育との連携のあり方」について、現場の先生と共に連日活発な研究協議がかわされ、それぞれ得るところ大であったと確信いたしております。

また、第8回「北米科学系博物館視察研修」には、24名の参加申込があり、実り多い成果が期待されると存じます。この視察研修を初めとして広く活発な活動が展開される一年でありますことを念じております。

本年もよろしく御協力を賜りますようお願い申し上げます。

自然史博物館（ロンドン）探訪記

新潟県立自然科学館 理工課長 日根 之和

1990年12月6日、全科協欧州科学系博物館視察研修団、総勢25名を乗せた英国航空機は、14時丁度に成田国際空港を離陸。ロンドンまでの12時間30分の飛行の後、現地時刻で17時50分 ヒースロー空港に無事到着した。気温は0度位、乾燥していてかなり寒く感じる。ロンドンは、サハリンと同じ北緯52度だから寒いはずである。それでも英国が海に囲まれているため、欧州では比較的暖かいそうだ。20時頃ホテルに着く、ゴチック建築風の素敵な建物で、前に公園その隣が大英博物館である。暖かい部屋に入り、ようやくロンドンに着いた感じになった。緊張の続いた旅行の初日を終えて、ほっとした。

翌朝、9時30分頃、タクシーで大英自然史博物館（The Natural History Museum）に向かう。外気温が摂氏1～2度という寒風の中、正門前に立っていると、博物館見学に来館した小学校のスクールバスが2台到着した。他に一般の客20人ほどと一緒に、開館時刻の10時を待った。

自然史博物館では、教育普及部のマクブラットニー氏が我々を迎えてくれた。始めに、博物館の概要説明を受け、同行の添乗員がこれを通訳した。その後、1時間ほど展示を案内してもらい、続いて同館のチャルマース館長主催の昼食会に招かれた。館長室に、ワイン、ジュース、サンドウィッチなど立食のランチパーティーが用意されており、我々一行25名と館側から6名の集いとなった。この昼食会の冒頭にチャルマース館長から、歓迎の挨拶と同館の現状について話があった。話の概略は次のようであった。

自然史博物館として1873年に開館。120年前に建築された現在の建物を大切に使っている。職員数は750人（研究員500人、管理・保守用員250人）。研究部門は、昆虫、古生物、鉱物、動物、植物の5部門に分れている。世界各地のさまざまな標本を収集し続けて、現在の収蔵資料点数は約5,500万点。標本の展示効果を高めるように、動物の生態のジオラマを多くしている。



マクブラットニー氏の説明を聞く視察団一行

年間の入場者数は約160万人。子供はそのうちの12%。年間の運営費は3,600万ポンド（約86億円）。運営費は、政府から75%、入場料と寄付が25%。入場料は大人3ポンド。

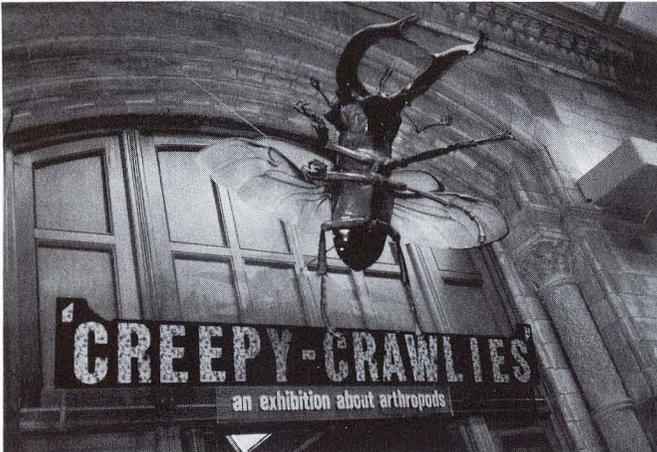
英国王室のダイアナ妃は、同館の支援者でもあり、大口の資金援助を頂いている。日本からの援助も増えており、笹川財団からも多額の寄付をもらい感謝している。

この後、国立科学博物館手塚部長が視察団を代表してお礼の挨拶をし、会食しながら懇談が始まった。団員の中には流暢に英語を話す方がおり、和やかな会になった。伝統ある自然史博物館職員の意見を直接聞くことができ、博物館の世界的な繋がりを体験できる貴重な機会であった。

会食を終えて、昆虫、岩石、古生物の3グループに別れ、一般には公開されていない博物館の裏方を見学した。私は昆虫のグループに参加、栃木県立博物館自然課長の樋口さんがグループのリーダーになり、昆虫研究部長のマウンド博士から説明を聞きながら、研究室、標本収蔵庫などを案内してもらった。

昆虫研究部長のマウンド博士の説明（要約）

世界の昆虫のほとんどの種を所蔵し、標本点数は2,500万点以上になる。昆虫の研究スタッフは現在64人。10年前は91人いたが、予算減で少なくなってきた。資料整理のためにコンピュータ



左：節足動物の展示室入口。クワガタムシの拡大模型が目をはく。

下：節足動物の展示室。中央台の上にサソリの拡大模型

を4台使っている。このデータを世界の研究者の利用に供している。日本の研究者も利用している。しかし、財政難で十分に対応できないのが残念である。日本からの寄付を頂ければ幸いである。最近日本の池上氏から優れた蛾のコレクションの寄贈を受け、感謝している。

いつも考えていることは「何のためにコレクションをするのだろうか？」と言うこと。このことが最も重要なことである。私の答えは「このコレクションで人を助けることである。つまり医学の研



究に役立てること。」

また、世界の昆虫研究者との共同研究（勿論日本も含めて）で、これからも一層有益なものをつかみたい。

以上の他に、樋口さんが昆虫標本や研究内容について、専門的な内容の質疑があった。

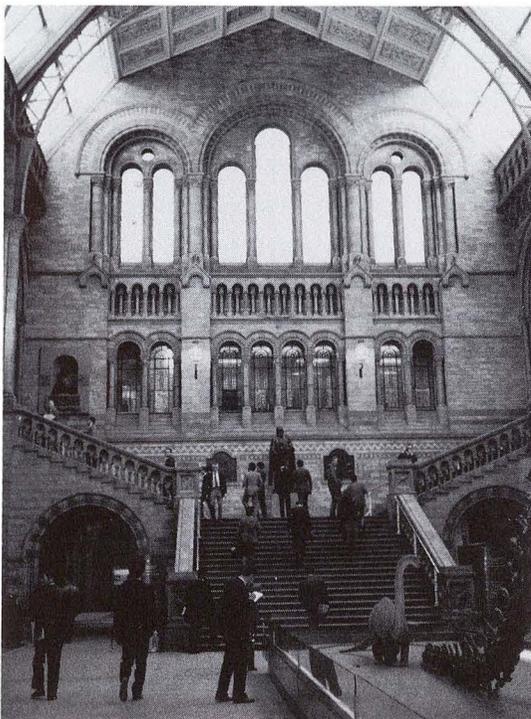
さて、この自然史博物館で特に印象に残った展示を列挙すると

① Creepy-Crawlies（気味の悪い爪のあるもの）

岩石、古生物、鳥類などの展示場は古典的な展示（ガラスケース内の分類・系統的な陳列）であるが、この節足動物に関する展示場は優れたものであった。昆虫などを入館者（特に子供）に正しく紹介しようという姿勢が強く感じられる。

例えば、拡大模型を作ったり、モニターテレビで生態を見せたり、生きている昆虫を展示したり、漫画やイラストを使って解説をしたり、かぶと虫のコーナーに西洋の鉄製の鎧兜を展示したり、色々工夫をしている。

しかも、解説の内容が非常に濃く、さすがに多



自然史博物館のエントランスホール



パネルの前の「手」がスイッチ。マンガを使った解説パネル

くの昆虫の研究者を擁していると頷けるものがあった。自然史関係の展示もこのように楽しい参加体験型にすることが出来るのかと感心した。他の展示場はガラガラであったが、ここにはこんなに子供が入館したのかと疑うほどに多く集まっていた。どの子も目を生き生きと輝かしていたのが印象的であった。

② Origin of Species (種の起源)

英国の進化論学者のダーウィンの紹介コーナーである。進化論を12のテーマにわけ、色々の展示手法(実物標本、映像、パネルなど)を駆使して解説していた。このコーナーだけで約500㎡。岩石、動植物などの分類や系統的展示が多い中で、人物とその業績を紹介するという異質の展示であった。それは、ダーウィンを英国がいかに誇りにしているか分かるようであった。

③ Human Biology (人間生物学)

人間に関することを分かり易く展示している。人体の構造、遺伝、生殖、脳、記憶など徹底的に解説している。リアルな模型や写真、パネルで性を扱っているが、中身が濃く、わいせつな感じはまるでない。日本ではとても展示できそうもない気がする。

④ 準備中の新展示

人間と自然の調和が展示テーマである。環境問題を取り上げてくれと言う社会的な要望とのことである。約800㎡の広さで、植物生態ジオラマの中に動線があり、環境問題について考えさせる展示である。91年秋に完成する予定、製作費約200万ポンド(4億8千万円)。伝統を重んじる一方で、新しいテーマに取り組む博物館の姿勢が感じられた。

⑤ 特別展「恐竜展」

英国内や海外の化石標本を数多く展示した特別展の中で、日本のK社製作の恐竜ロボット12台が展示されていた。恐竜ロボットは、首や足が動き声を出すものである。これも非常に人気があり、多くの子供達で賑わっていた。世界的な自然史博物館が日本製の恐竜ロボットを評価していることを嬉しく思った。

夕刻、近くのレストランで自然史博物館館長主催の夕食会に招かれた。我々25名は館長他4名にワイン、ビール、肉や魚、デザートなどで大いに歓待された。私と同じテーブルだった教育普及部マクブラットニー氏が、「博物館の重要な仕事は科学知識の普及だと思います。いかに楽しく、易しく、しかも内容を濃く展示するか。どのように館の展示資料による教育普及を充実させるか。」と考えを述べられた。同席の福岡県青少年科学館の永田さんは英語が大変堪能で通訳をいただいたおかげで、英国における博物館の役割や博物館で働く者同志の苦労話などを交えて、実に楽しく有意義な会食であった。

世界に冠たる自然史博物館の館長をはじめ、英国の博物館人と直に話が出来て幸いであった。全科協の公式訪問でなければ、このように歓談できる機会はないだろう。先回の全科協海外視察で米国の科学博物館職員と交わした話題などを思い起こして、日英米の博物館人の共通点、相違点は大変興味深いものと思った。

英国での博物館視察研修初日は、充実した日を過すことができ、我々団員相互の親睦も図れて、旅の始まりにふさわしい一日であった。

1992年 国 際 宇 宙 年 の 活 動 始 ま る

平成3年12月6日に、国内の宇宙開発等に関連する企業85社が中心となって「日本国際宇宙年協議会」が設立された。同協議会は、1992年の「国際宇宙年（ISY：International Space Year）」の国内活動を推進することを目的として発足したものである。

1992年はコロンブスの新大陸到達から500年、国際地球観測年（IGY）と史上初の人工衛星スプートニク1号の打ち上げから35周年にあたる。これを記念して、1992年を国際宇宙年（ISY）とし、これを契機に宇宙に関する教育普及活動と人工衛星等を用いた地球観測を国際的に推進しようとするもので、1989年の国連総会で各国際機関が国際宇宙年の活動を支持することになった。

国際宇宙年の活動を実施するために、39の宇宙関連機関が協力する会議がすでに1988年に設けられ、国際宇宙年宇宙機関会議（SAFISY：Space Agency Forum on ISY）と呼ばれフランスが議長国となって、毎年開催されてきた。

また、国際学術連合会議（ICSU）が中心となって、宇宙関係の各学会を通じて、ISYの活動を始めている。

一方、民間団体では、米国ISY協議会（1987年設立）、欧州ISY協議会（1989年設立）がイベント開催、ニュース発行などの活動を続けており、日本ISY協議会の設立によって、ISYの国際協力の輪が広がったことになる。

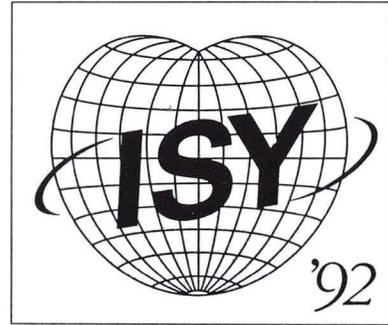
日本ISY協議会では、次のような活動を予定している。

○国際会議の開催

- ・アジア太平洋ISY会議（1992年11月・東京）
- ・ISY記念会議との連携等

○広報活動

- ・ロゴマークの制定、ポスター、パンフレット、ビデオ、ISYニュース等の発行
- ・作文コンテスト（小・中・高校生対象）
- ・宇宙トマト栽培チャレンジ（小学生対象）
- ・「宇宙の日」の公募・制定（日本の宇宙開発等に意義ある日を一般から公募。）
- ・宇宙をテーマの巡回展示会（国内各地）
- ・宇宙から見た地球の写真展開催
- ・記念講演会・ロケット工学ワークショップ、

INTERNATIONAL SPACE YEAR
国際宇宙年

セミナー、宇宙映画祭等の開催

- ・「ふわっと'92プロジェクト」（スペースシャトルに搭乗する日本人宇宙飛行士による宇宙実験に関連する各種行事）
- ・新聞・テレビ・雑誌等による広報等
- ・その他

○国際交流

- ・欧州ISY会議への関係者派遣、国際会議等への関係者派遣及び出席。
- ・海外ISY関係者の招聘等。

同協議会の活動内容等は、今後順次決定され、国内の関連機関、団体等をはじめ、科学館等にも広報していく予定であるという。

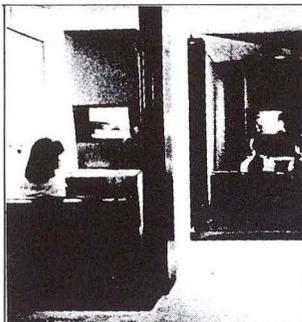
すでに、「宇宙トマト栽培チャレンジ」については、国内の科学館等を通じて、参加する小学校を募集している。

同協議会では、ISY記念事業の推進のために、国内の地方公共団体、科学館等が計画中の宇宙関係の行事、展示等の情報収集に協力を求めている。

同協議会の組織・活動内容及び、日本ISY協議会の後援・協賛名義の使用や、ISY記念事業への参加等については、下記宛にお問い合わせください。

○日本国際宇宙年協議会

〒108 東京都港区三田3-4-3
三田第一長岡ビル 6階
電話 03-5443-1992



ビデオライブラリシステム
ACL-3300L

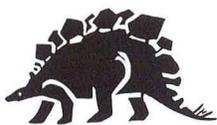
株式会社 **アサカ**
〒163 東京都新宿区新宿NSビル
私書箱第6010号 ☎ (03) 3349-1515(代)
販売：株式会社シバソク/ソフト制作・
サービス：株式会社エイ・エス・シー

超大型写真づくりで40年。
私たちは、きびしい要求をひとつずつ消化してきました

クリエイティブ・フォト
ササオ
株式会社
〒110 東京都台東区上野2-27-7 ☎ (03) 3834-3565(代)

「恐竜マグ」発売元

博物館・科学館の記念品
オリジナル商品の企画・製作



TEL. 03-3467-6555 株式会社 アンティー
FAX. 03-3467-6568 〒151 東京都渋谷区霊ヶ谷1-17-9-302

斬新な企画とアイデアで科学をディスプレイする。
Science & Display これが目標です。

株式会社 **サテタイト**

東京都渋谷区神宮前3-10-12
TEL. (03)3478-0055(代表)

ユニークなディスプレイ
企画・設計製作・施工

おお み
om 大 味

〒116 東京都荒川区町屋 6-6-5
TEL.3892-2796(代) FAX.3819-2821

生きた空間づくりをめざして

科学館・博物館の企画・設計・施工

商工美術株式会社

本社 東京都目黒区目黒本町2の17の20

東京 大阪 札幌
03-3716-7601 06-251-4141 011-222-5261

For Nature



恐竜復元模型 (ティラノザウルス アローザウルス トリケラトプス etc.)

- 化石標本
 - 動物骨格標本
 - 各種実験装置
 - 天体フィルム
- その他、博物館、科学館、展示品一式。

(株)ゼネラルサイエンスコーポレーション

〒107 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL.03-3583-0731 FAX.03-3584-6247

学研

Gakken
〒146 東京都大田区仲池上1-17-15(学研第2ビル)
TEL.03(3726)8761

株式会社
学研学習研究社
環境メディア部

博物館・科学館
企画・設計・制作・施工

MUSEUM DATA BANK

博物館 情報サービス&
総合コンサルティング

株式会社 丹青総合研究所・文化空間研究部
TANSEI INSTITUTE CO., LTD. 〒113 東京都文京区湯島3-9-11 増田ビル
DIAL-1103-3036-7323 FAX103-3036-7320



株式会社 東京スタジオ PHONE : 03-3946-8241
本 社 東京都豊島区駒込 1-14-6
営業所 札幌 浜松 豊橋 京都 福井



The creativity of
Artistic Amenity Space
芸術的快適空間の創造！
NOVAの主張です

ノバエ芸術株式会社・文化事業部
東京都中央区京橋 2-3-4 YSビル
PHONE 03-3272-0031 (代表)

美術はく製

各種生物
剥製・骨格標本・レプリカ
加工・販売・リース



有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方 2-18-1 電話 0473(37)5678
本 社 〒272 千葉県市川市国分 5-3-25 電話 0473(74)1564

展示用・研究資料

鉱物・化石標本専門

凡地学 研究社

〒113 東京都文京区千駄木3-33-1
TEL.03(3821)6941 FAX.03(3824)9134

ピクチャー ハンギング システム
コルダーライン

芸術を人の心に結びつける、壁面展示専用金具。



株中村多喜彌

●大阪/〒542 大阪市中央区島之内1-10-12
TEL.06-253-0331 FAX.06-253-0399
●東京/〒135 東京都江東区三好3-8-15
TEL.03-3642-3801 FAX.03-3643-0096

感動

のスペースづくり



DISPLAY & INTERIOR
株 式 会 社 ムラヤマ
〒112 東京都文京区後楽2-23-10 Phone : 03-3813-1201
東京/大阪/名古屋/横浜/千葉/神戸

ユニークな企画と
定評ある表現技術



〒607 京都市山科区柳辻池尻町48-4
TEL.京都(075)594-0181(代) FAX.(075)593-2384

やかな発想、確かな技術
と科学のディスプレイ



企画・設計・製作

株式会社 メガ・システム開発

〒153 東京都目黒区目黒1-2-23-10号 TEL.03-3493-8864 FAX.03-3493-1870

夢環境の創造

目精株式会社

本社 東京都港区西新橋1-18-17
TEL(03)3502-9591

事務局から
博物館・科学館等の展示、教育普及活動等に関係
ある業種の広告を、この全科協ニュースに掲載希
望の場合には、お問い合わせください。

〒110 台東区上野公園 7-20

国立科学博物館内 全科協事務局

電話 03-3822-0111(代) FAX 03-3824-3298

全科協北から南から

加盟館の特別展・企画展

○恐竜展 —マイアサウラ親子の世界—

平成4年1月12日～3月8日

府中市郷土の森博物館

恐竜マイアサウラは、米国の古生物学者ジョン・R・ホーナーによってモンタナ州ロッキー山麓で1978年に発見され、恐竜が巣作りや子育てをしていたという新学説を発表するもととなった貴重な化石である。恐竜の卵、幼体から成体までの成長過程を示す化石等を多数展示する。

○ゼロゼロワンダフル～ふれあい海…ロボット

平成4年1月19日～2月16日

ていぱーく・通信総合博物館

通信総合博物館（東京都千代田区）では、海をテーマにした特別展を開催。海に生きる生物たちのユーモラスな面を紹介するとともに、海底ケーブル通信の解説や国際通信の相談コーナーなど、“情報網としての海”への理解を深めてもらう展示内容。

○南米大陸写真展 開催

たばこと塩の博物館（東京都渋谷区）では、平成3年12月14日～平成4年2月16日まで、「人と自然の共生大陸 南米大陸写真展」を開催。この写真展では、関野吉春晴が20年余りの歳月をかけて、アマゾン流域からアンデス山脈まで、南米の人々とともに暮しながら撮影した作品を展示する。

○鉄道と観光ポスター展

交通博物館

交通博物館（東京都千代田区）が所蔵する明治期からのポスターの中から日本の鉄道に関連するものを約40点展示する。会場は同館1階特別資料展示室、会期は2月4日(火)から4月19日(日)まで。

○目で見るとくすりのあゆみ展 国立科学博物館

平成4年3月7日(土)～4月5日(日)

人類がどのように幾多の疾病を克服してきたか、その努力の経過をたどり、その過程で医療を支えてきたくすりの変遷に焦点を当てる。展示資料数は650余点。共催内藤記念科学振興財団。

加盟館の新番組

○横浜こども科学館 宇宙劇場・プラネタリウム
新番組公開中 『巨大望遠鏡の時代』

わが国が初めて海外に設置する光学赤外線望遠鏡（口径8m）が、ハワイ島マウナケア山頂に建設中である。番組ではこの望遠鏡の計画の概要や赤外線観測から期待される新しい宇宙の姿を紹介。

○全天周映画「グレートバリアリーフ」上映

板橋区立教育科学館（東京都板橋区）では、平成3年12月14日～平成4年3月8日まで、全天周70ミリ映画アストロビジョンによって、「板橋の空撮」と「グレートバリアリーフ」の2本を、同館のプラネタリウムで上映。

加盟館のカレンダー

○サンシャインプラネタリウム 1992カレンダー
サンシャインプラネタリウム（東京都豊島区）では、天文写真を使った1992年用のカレンダーを作成した。使われている写真は、第8回サンシャインプラネタリウム天文写真コンテストで入賞した作品から、選んだもので、いずれも美しい天文現象がとらえられている。B4判。

○スペースワールド宇宙博物館のカレンダー

1992年が国際宇宙年であることから、スペースワールド宇宙博物館（福岡県北九州市）では、惑星や宇宙から見た地球、スペースシャトルなどの迫力ある写真を使った1992年版カレンダーを製作した。1部500円、送料実費。申込みは、電話093(672)3670へ。

加盟館の出版物

○岩手県立博物館収蔵資料目録 第8集 考古Ⅱ
小田島コレクション その1 1992

岩手県立博物館

○プラネタリウム学芸報 No.4 1991

千葉県立郷土博物館

○開館10周年記念誌「あゆみ」 1990

和歌山市立こども科学館

○府中市郷土の森 年報 第5号 1991

府中市郷土の森博物館